

ヨハネの手紙第一

§ 5 御子に関する証言と救いの確証(5:6-13)

前回の復習

1. これまで、以下のことが語られてきた。
 - (1) クリスマスは神の命令を守ることにより、救いの確証を得ることができる。
 - (2) クリスマスは互いに愛し合うことにより、救いの確証を得ることができる。
 - (3) クリスマスは「イエスは人として来られたキリストである」と信じていることにより、救いの確証を得ることができる。
 - (4) 私たちに救いの確証を与えてくださるのは聖霊である。
 - (5) 救いの確証の土台は、「イエスは神の御子である」という事実にある。
2. ヨハネは 5:6-13 で、「イエスは神の御子である」ということをさらに強調していく。
 - (1) 「イエスは神の御子である」と信じる読者たちへの励ましのため。
 - (2) イエスが「人として来られたキリストである」と信じていない異端者への反論のため。

アウトライン

1. 御子の受肉を証言する3つのもの (5:6-9)
 2. 証言に基づく救いの確信 (5:10-13)
- 結論：私たちがヨハネの手紙第一を学ぶ意義

§ 5 御子に関する証言と救いの確証(5:6-13)

1. 御子の受肉を証言する3つのもの(5:6-9)

5:6 このイエス・キリストは、水と血とによって来られた方です。ただ水によってだけでなく、水と血とによって来られたのです。そして、あかしをする方は御霊です。御霊は真理だからです。

1. イエスは「**来られた方**」である。
 - (1) 「来られた」にはエコマイという動詞が使われている。
 - (2) ヨハネの福音書では、この動詞を使って、イエスが天から世に来られたメシアであることが強調されている (1:9、15、27 ; 3:31)。

(3) イエスが「**来られた方**」であるということは、ナザレのイエスは天から来られたメシアである、ということを強調している。

2. イエスが天から来られたメシアであることは、水と血によって証言されている。

(1) 「**水と血**」は、イエスの公生涯の始まりと終わりを表している。

a. 水によって来られた：洗礼を受けて公生涯を開始された。

b. 血によって来られた：十字架の死によって公生涯を完了された。

(2) バプテスマのヨハネから洗礼を受けられたとき、御霊が下り、父なる神の声が聞こえたことで、イエスは神の子であり、メシアであることが証明された。

マタ 3:16 こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って、自分の上に来られるのをご覧になった。

マタ 3:17 また、天からこう告げる声が聞こえた。「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」

(3) イエスは十字架で死なれたことで、イザヤ書 53 章で預言されていた、メシアによる贖いの御業を完了された。これによって、イエスが世の救い主として遣わされたメシアであることが証明された。

(4) 「**水と血**」は、イエスがメシアとして歩まれた公生涯を要約している。

3. イエスが「**ただ水によって**」来られたと信じるだけでは不十分である。

(1) 紀元 1 世紀末のエペソには、イエスが洗礼を受けたときにキリストの霊がイエスに降り、十字架にかけられたときにその霊は彼から離れ去ったと考えていた人々がいた。

(2) しかし、十字架で流されたイエスの血こそが贖いの御業の土台であり、私たちの罪を清めるのである (1:7 参照)。

4. イエスが水と血によって来られたキリストであることを証言されるのは聖霊である。

(1) 聖霊は、父なる神から聞くままを話し、イエスの栄光を現すお方である (ヨハ 16:13-14)。

(2) 私たちの内におられる聖霊ご自身が、「洗礼で始まり、十字架で完了した公生涯を見れば、イエスがキリストであることは分かるでしょう」と証ししておられるのである。

(新共同訳)

5:7 証しするのは三者で、

5:8 “霊”と水と血です。この三者は一致しています。

1. イエスが神の子であり、人として来られたキリストであると証言するのは「御霊と水と血」である。
 - (1) イエスの公生涯では、常に聖霊の働きがあった。
 - a. 洗礼において聖霊が下られた (ヨハ 1:32-34)。
 - b. 聖霊はイエスを荒野に導かれた (ルカ 4:1)。
 - c. 聖霊の働きにより、イエスはキリストとして神のことばを話された (ヨハ 3:34)。
 - d. 聖霊はイエスの働きのために力をお与えになった (ルカ 4:18 ; マタ 12:28)。
 - (2) 聖霊が導かれたイエスの公生涯の到達点こそが十字架の死であった。
 - (3) イエスの洗礼と十字架は、聖霊の働きがあって初めて、イエスが神の子であると証言することができる。

2. 「御霊と水と血」は3人の証人である。
 - (1) 「御霊と水と血」は中性形の名詞だが、これらを指して男性形の「三者」(トレイス)という言葉が使われている。ヨハネは、これらを擬人化して扱っている¹。
 - (2) ユダヤ文化では、ある証言は「二人または三人の証人」によって為されなければ、信頼に足るものとは見なされなかった。

申 19:15 **どんな咎でも、どんな罪でも、すべて人が犯した罪は、ひとりの証人によっては立証されない。ふたりの証人の証言、または三人の証人の証言によって、そのことは立証されなければならない。**

Ⅱ コリ 13:1 **私があなたがたのところへ行くのは、これで三度目です。すべての事実は、ふたりか三人の証人の口によって確認されるのです。**
 - (3) また、証言は男性によってなされなければならなかった。
 - (4) 「御霊と水と血」の三者の証言によって、イエスが人として来られたキリストであるという事実が確認された。

3. この三者は、イエスがキリストであることを証言するために一致している。
 - (1) イエスご自身がキリストであることを証言するためには、御霊と水と血の三者が不可

¹ この三者のうち、聖霊だけは「水と血」とは異なり、ご人格を持っておられる神である。ヨハネは福音書でも御霊を指して「彼 (エケイノス)」という男性形代名詞を使っている (16:13、14)。

欠である。

- (2) この三者が一致して証言しているからこそ、イエスが人として来られたキリストであるということに疑いの余地はない。
- (3) イエスが洗礼を受けられたこと、十字架で死なれたこと、そういった出来事の背後に聖霊の働きがあったことは、覆しようのない歴史的事実である。

5:9 もし、私たちが人間のあかしを受け入れるなら、神のあかしはそれにまさるものです。御子についてあかしされたことが神のあかしだからです。

1. 「御霊と水と血」による証しは、父なる神による証言でもある。
 - (1) 聖霊は神の御霊である。
 - (2) イエスの洗礼は神が望まれたことであった（マタ 3:15、17；ヨハ 1:33）。
 - (3) イエスの十字架は神が望まれたことであった（イザ 53:10；ピリ 2:8）。
2. ユダヤ文化における証言と「神のあかし」
 - (1) 当時のユダヤ人たちは、二人または三人による証言を受けて、人間のあかしを受け入れていた。
 - (2) もし同じ基準で神のあかしが与えられれば、それは人間のあかしに勝るものである。
 - (3) 神は申命記で「二人または三人による証言」という規定をお与えになった。その規定に合わせ、イエスがキリストであるということを証明するために、三人の証人をお与えになった。

2. 証言に基づく救いの確信(5:10-13)

5:10 神の御子を信じる者は、このあかしを自分の心の中に持っています。神を信じない者は、神を偽り者とするのです。神が御子についてあかしされたことを信じないからです。

1. 神による証言を信じなかった者は、神を偽り者としている。
 - (1) 「神を信じない者」は完了形であり、「神を信じなかった者」と訳すこともできる（New American Standard Bible や English Standard Version ではそう訳されている）。
 - (2) 「偽り者」という言葉（プセウステス）は、イエスが悪魔に対して使っておられるものと同じである（ヨハ 8:44）。
 - (3) 神の証言を受けてもそれを信じなかった者は、神の証言を退け、神を悪魔のごとき「偽

り者」としているのである。

- (4) ジョン・ストット「信じないということは、あわれむべき不幸ではない。それは悔やむべき罪なのである。その罪深さは真の神のことばを否認し、神を偽り者とすることにある。」²

2. 異端者についての警告

- (1) 神を信じている、イエスを信じている、クリスチャンであると言いながら、「御霊と水と血」による証言を信じず、イエスが人として来られたキリストであると信じていない者がいるならば、警戒しなければならない。
- (2) そのような者は、神ご自身による証言を退け、神を悪魔のごとき偽り者としている反キリストであり、偽預言者である。

5:11 **そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子のうちにあるということです。**

5:12 **御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。**

1. 「**御霊と水と血**」は「御子イエスにある永遠のいのちが私たちに与えられた」ということも証ししている。
- (1) 神の子のうちには永遠のいのちがある。
- ヨハ 1:4 この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。**
- (2) 御子イエスは、ご自分を信じる者は永遠のいのちを持っていると宣言された。
- ヨハ 5:24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。**
- (3) イエスが神の子なら、宣言の通り、イエスを信じる私たちは永遠のいのちをいただいている。
2. イエスが神の子であり、私たちに永遠のいのちを与えられたという証言を信じることで、私たちは自分の救いをますます確信することができる。

² ジョン・R・W・ストット『ティンデル聖書注解 ヨハネの手紙』千田俊昭訳（いのちのことば社、2007年）204頁

5:13 私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。

1. ヨハネがこの手紙を書いた目的

- (1) この手紙で語られてきた神学的な内容は、特別に目新しい教えというわけではない。
- (2) ヨハネは、あえて既にクリスチャンである読者たちに、そのような教えを書き送った。
- (3) それは、読者たちが「永遠のいのちを持っていることを、……よくわからせるため」だった。

2. 「あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。」

- (1) 新共同訳では「悟らせたい」と訳されている。
- (2) ヨハネは、以下のことについて、読者たちがよく理解し、確信することができるようにこの手紙を書いてきた。
 - a. クリスチャンは御子への信仰によって永遠のいのちを持っている。
 - b. それは、神の命令を守り、互いに愛し合うことによって確証される。
- (3) 福音書の結論との類似性
ヨハ 20:31 **しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることをあなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。**
- (4) 福音書は、読者がイエスをキリストとして信じ、永遠のいのちを得るために書かれた。手紙は、クリスチャンになったものの異端による問題に直面していた読者たちに、もう一度正統的信仰を説き明かし、信仰による救いを確信させるために書かれた。
- (5) 中川牧師「イエスを信じて永遠のいのちを受けた人は幸いです。さらに、この手紙によって、自分が永遠のいのちを持っていることを確信した人も幸いです。」³

³ 中川健一『クレイ聖書解説コレクション ヨハネの手紙第一・第二・第三』（ハーベスト・タイム・ミニストリーズ出版部、2015年）MOBI版、locations 1038-40

結論: 私たちがヨハネの手紙第一を学ぶ意義

1. 復習: クリスチャンの霊的成長過程 (Iヨハ 2:12-14)
 - (1) イエスが神の子であると信じ、永遠のいのちを持つようになった私たちは、神の一方的な恵みにより「子どもたち」として新しく生まれた (2:12、14)。
 - (2) 私たちは、「若い者たち」として自分たちの罪と、また正統的信仰を否定してくる者たちや彼らの価値観との霊的戦いの中に身を投じている (2:13、14)。
 - (3) その過程を通して、私たちは神を体験的に知った、とすることができるような「父たち」へと成長していく (2:13、14)。

2. この手紙を学ぶ意義
 - (1) 私たちは今、霊的成長の過程にいる。永遠のいのちを持っている中でも、様々な葛藤や戦いを経験している。
 - (2) だからこそ、私たちもこの手紙から「私たちが信じているのは何か、信仰により神の子とされた者としてどのように歩むべきか、そして、信じた結果、何を得ているのか」を学ぶべきである。
 - (3) それによって、自分たちが信仰と恵みによって救われていることを確信することができる。
 - (4) 救いの確信は、私たちを救ってくださったイエス・キリストへの信頼に繋がる。
 - (5) 霊的戦いの中で信仰が揺らぐとき、すぐに思い出すことができるよう、私たちは救いの確信をしっかりと持つべきである。